

1 学期 終業式校長講話

「こころの通知票」

おはようございます。少し暑いですが、しっかりと話を聞いてください。

4月にスタートした1学期も今日で終了します。今日まで授業日数はちょうど70日を数えました。みなさんの70日間はどうかだったでしょうか。みなさんは今日、通知票をもらいます。

そこには1学期の学習について成績という形で、みなさんの頑張りについて特別活動の記録と先生方の所見という形で記載されています。

でも通知票だけに表せない一人ひとりのみなさんの70日があったのだと思います。だから今日の話のテーマは「こころの通知票」にします。

「こころの通知表」なんていうと変に聞こえるかもしれませんが。人間の心に成績はつけられないし、そんな通知表はありませんよね。

でも、もしこころの通知票があったとしてその通知票をだれがつけるのかと言うと、先生でも友達でも親でもない。それは自分自身です。なぜなら前にもお話ししましたが心は他人には見えないからです。

さてそれでは、まずは1学期の自分を振り返ってみてください。こころの通知票の付け方の規準を言いますね。

一つ目は、自分が出来る精一杯のことを一生懸命やって、自分に恥ずかしくない毎日を送ることが出来たかどうかということです。みなさんの教室に凡事徹

底、あたりまえ10か条が貼ってあると思います。授業は真剣に受けることが出来ましたか。清掃や給食準備は協力して毎日出来ましたか。係や委員会の仕事に真剣に取り組みましたか。服装はきちんとしていましたか。時間を守ることが出来ましたか。

二つ目は、仲間を大切に人の気持ちを考えることが出来たかどうかです。自分だけ楽しければいい、人の気持ちは関係ないなんて思っていませんでしたか。不満があれば友達や先生にすぐにとげのある言葉をぶついたりしませんでしたか。ちょっとしたことでイライラしたり、カッとなったり、物に当たったりしませんでしたか。

三つ目は先月も話をしましたが、心が疲れてしまっていないかどうかです。つらくて生きていくことが嫌になったり、悩んで眠れなくなったり、友達関係で困ってクラスや部活に行きづらくなったり、おうちで家族とうまくいけなくなったりしていませんか。

もしころの通知票があったらみなさんは自分の1学期に5をつけますか。それとも3ですか。1がついてしまう人はいませんか。

振り返って、一つ目のできることを精一杯やらなかった人や二つ目の人の気持ちを考えたり自分をコントロールできなかったなという人は、これは自ら変えることです。授業や勉強を頑張って成績を上げることが出来るように、ちょっと心がけを変えて自分に厳しく、人には優しくするだけで、ころの成績も

変わってくるのではないのでしょうか。あなたにしか自分を変えることはできません。2学期からぜひ変わってください。

そして3つ目の悩みで苦しんでいた人たち、この人たちは反対に自分一人で抱え込まないでください。先月も話しましたが、苦しいときは苦しい、いやなときはいやだと誰かに伝えてください。心が壊れてしまう前に助けを求めてください。

明日から44日間の長い夏休みに入ります。授業はないけれど、みなさんの心と体と頭脳の成長は止まるわけではありません。部活動などで体を鍛える、勉強に懸命に取り組んで頭を鍛える、進路選択に真剣に向き合う。でもそれだけでなく、夏休みにしかできないことや体験をたくさんして心も鍛えてください。9月に全員が元気に登校することを期待しています。